

<業界レポート> 2019 年中国化学肥料産業のデータ

(2020 年 5 月 24 日作成)

中国は世界最大の化学肥料生産国と消費国で、2017 年までは世界最大の尿素とりん安の輸出国でもある。特に 2007 年リーマンショック以降、中国政府は総額 4 兆人民元（約 57 兆円）の経済対策を打ち出して、大型化学肥料工場の新設に拍車がかかった。2011～2012 年に 20 の尿素プラントが完成し、生産能力 1278 万トンが新たに増加した。また、2013～2015 年にも 44 の尿素プラントが完成し、さらに約 2070 万トンの生産能力が増加した。りん酸肥料と化成肥料も同じ状況である。加里を除き、ほかの化学肥料生産能力が大きく過剰状態に陥った。

しかし、国際競争力については、中国が主要な化学肥料生産国の中には明らかに劣勢である。窒素肥料のアンモニアは 7 割以上が石炭を原料とするものである。りん鉱石も 80% 以上が坑道掘り、採掘コストが高いうえ、鉱石の品位が低く、選鉱が必要である。また、加里資源が少なく、加里の自給率が 50% しかなく、自国消費量の半分以上が輸入に依存している。これに加え、国内の化学肥料消費量も逐年減少して、過剰の生産能力と国際競争力の弱さが化学肥料業界の最大の問題となっている。2017 年から政府が音頭を取り、老朽化設備の廃棄を通じて、化学肥料生産能力の削減に努めてきた。本篇は著者が入手した 2019 年の中国化学肥料産業に関する一部のデータを報告する。

1. 化学肥料の生産能力

中国窒素肥料工業協会の統計データによれば、2019 年末現在、中国のアンモニア生産能力が 2.1% 減の 6619 万トン、尿素生産能力が 4.1% 減の 6668 万トン。

中国りん酸肥料と複合肥料工業協会の統計データによれば、2017 年からりん酸肥料生産能力が 3 年連続減少し、2019 年末現在のりん酸肥料生産能力（P₂O₅ 換算）が 4.3% 減の 2250 万トン。そのうち DAP 生産能力（実物量）が 2.1% 減の 2,075 万トン、MAP 生産能力（実物量）が 2.9% 減の 1565 万トン。

2019 年末現在の化成肥料を含む複合肥料生産能力（実物量）が 2% 減の約 1.67 億トン。

中国無機塩工業協会の統計データによれば、2019 年末現在、中国の塩湖鹹水などから加里を生産する資源型加里生産能力（K₂O 換算）695.7 万トン、塩化加里を原料として、硫酸加里などの加里肥料を生産する加工型加里生産能力（K₂O 換算）301.7 万トン。

2. 化学肥料の生産量

中国国家統計局の統計データによれば、2019 年中国の化学肥料生産量が 3.6% 増の 5624.9 万トン、

中国窒素肥料工業協会の統計データによれば、2019年中国アンモニア生産量が2.6%増の5757.9万トン、窒素肥料生産量（N換算）が4.1%増の3964.7万トン、そのうち尿素生産量（実物量）が5.2%増の5475.2万トン

中国りん酸肥料と複合肥料工業協会の統計データによれば、2019年中国りん酸肥料生産量（P₂O₅換算）が6.9%減の1580万トン。そのうちDAP生産量（P₂O₅換算）が8.1%減の684万トン、MAP生産量（P₂O₅換算）が7.3%減の641万トン。

2019年中国複合肥料（化成肥料、BB肥料などを含む）生産量（実物量）が2.6%増の4601.9万トン。

2019年中国加里肥料生産量（K₂O換算）が8.3%増の590.2万トン、そのうち塩化加里671万トン、天然資源型の硫酸加里91.2万トン。

3. 化学肥料の国内消費量

2019年中国国内化学肥料消費量（N、P₂O₅、K₂O換算）が4.4%減の5403.59万トン。各養分の消費量は、

窒素肥料消費量（N換算）が0.13%減の3007.5万トン、そのうち尿素消費量（実物量）が0.4%増の4998.8万トン。

りん酸系肥料消費量（P₂O₅換算）が6.6%減の764.6万トン、そのうちDAP消費量（実物量）が4%増の832.6万トン。

加里肥料消費量（K₂O換算）13%増の1258万トン。

4. 輸入と輸出

中国税関の統計データによれば、2019年中国の窒素化学肥料輸入量が3.8%減の32万トン、輸入金額が2.1%増の55.2億人民元。一方、2019年窒素化学肥料輸出量が37.2%増の584.4万トン、輸出金額が4.2%増の435.6億人民元。

尿素については輸入量が11%増の18.1万トン、輸入金額が2.4%増の4654万ドル。輸入尿素はすべてイランとバーレーンからの中東品である。一方、輸出量が102.4%増の494.5万トン、輸出金額が81.5%増の14億ドル。

2019年りん酸肥料輸入量（P₂O₅換算）が13.7%減の25.1万トン、輸出量（P₂O₅換算）が6.7%減の508.5万トン。なお、インド向けのりん酸肥料CFR平均価格が14.9%も下がった。

2019年中国の塩化加里輸入量が21.2%増の908万トン。2019年から塩化加里と硫酸加里の輸出関税が完全撤廃して、輸出量が急増した。塩化加里輸出量23.7万トン、硫酸加里輸出量32.6万トン。

2019年中国化成肥料輸入量が96.1%増の139.3万トン。輸出について、2019年からNPK化成肥料の輸出関税が完全に撤廃して、輸出が急増した。化成肥料輸出量が215.2万トン、そのうちNP化成肥料輸出量106.6万トン、NPK化成肥料輸出量108.6万トン。

5. 中国国内の化学肥料販売価格

中国石油と化学工業連合会の統計データによれば、2019年中國尿素の平均販売価格が5.2%の値下げで1892人民元／トン、DAP平均販売価格が4.4%の値下げで2549人民元／トン、MAP平均販売価格が6.1%の値下げで2138人民元／トン、國產塩化加里平均販売価格が1.8%の値上げで2322人民元／トン、硫系15-15-15化成肥料販売価格が6.8%の値下げで2267人民元／トンである。

6. 業界全体の収益

中国国家統計局のデータによれば、2019年窒素化学肥料の総売上高が10.6%減の2117.4億人民元、業界全体の利益が60.9%減の60.7億人民元、利益率が2.87%である。

2019年ある規模以上の窒素肥料メーカー190社のうち、赤字企業62社、昨年より13社増加した。業界の赤字企業比率が32.6%に達した。また、赤字企業の赤字総額が86.6%増の102.9億人民元。

2019年りん酸系肥料と複合肥料業界の総売上高が6.1%減の3268.6億人民元、業界全体の利益が35.9%減の83.6億人民元、利益率が2.6%である。

2019年ある規模以上のりん酸系肥料と複合肥料メーカー1019社、そのうち赤字企業216社、業界の赤字企業比率が21.2%に達した。

2019年中国資源型加里肥料メーカー25社、業界の総売上高が0.6%減の315.8億人民元、業界全体の利益が19.6%増の49.1億人民元。

7. 倒産と生産設備を売却して肥料事業から撤退

窒素肥料では大手国営企業1社が倒産、3社が肥料事業を手放しした。

四川蓥峰実業公司は国有企业で、窒素化学肥料と化成肥料生産能力100万トン以上、中國西南地域最大の化学肥料メーカーであったが、経営不振で、2019年倒産し、清算した。

柳州化工股分公司は国有企业で、華南地域最大の化工と化学肥料メーカーであったが、化学肥料事業が長年不振で、赤字に陥って、2017年に企業再生手続きに入った。2019年11月、柳州化工が尿素生産設備と関連設備を全部売却し、化学肥料の生産から手を引いた。

河池化工公司は国営企業で、广西省の主要窒素肥料メーカーであったが、2018年尿素生産ラインを休止して、化学肥料事業から撤退すると表明した。2019年9月、所有の尿素生産設備などを人民元1元の価格で売却した。

赤天化公司は国営企業で、貴州省最大の窒素肥料メーカー、尿素生産能力が100万トンを超えた。経営不振で、民間企業からの出資を受けた。2019年3~9月に所有の尿素生産を担当する2つの子会社を売却し、化学肥料事業から完全撤退して、医薬品・健康用品の企業に変身を図る。

りん酸系肥料では 13 社 P2O5 計 100 万トンの生産能力を廃棄し、15 社 P2O5 計 115 万トン生産能力を休止した。

中国りん酸肥料メーカー No.1 の瓮福と No.2 の開磷が合併した貴州りんグループは中国最大のりん酸肥料メーカーとなった。複合肥料大手の魯西化工が中国化工グループの傘下に入るなど、買収と合併が盛んとなった。

加里肥料産業については、中国最大の加里メーカー青海鹽湖工業が巨額の負債により企業再生を選択した。